

議会広報編集特別委員会

委員長 吉田 芳春

住民参加型の広報誌を

当委員会では、議会活動を積極的に情報発信すると共に「議会だより」の更なる充実について、継続して調査・研究に取り組みつつ、親しまれ、読みやすく、わかりやすい議会広報誌を目指し、各定例会終了後、議会だよりを編集し発行した。

長年、親しまれてきた「こちら議会広報部」については、平成27年1月発行の第40号から「周防大島町議会だより」にタイトルを変更させて

いただいている。紙面については、表紙には、堅苦しいイメージにならない写真を掲載するようにし、これにコメントを付すことで、読者の興味を引き、親近感を持っていただ

いた



全国町村議会広報研修会に参加した編集委員の皆さん

な趣向を取り入れられることで、議会広報誌のリニューアル化を図ってきたところである。今後更なる充実を目指し、皆様方から関心を持っていただける「議会だより」が発行できるように努める。

くよう心掛けて参った。また、本町で活躍されている方々にも執筆していただくことで、思わず手にとって読みたくなる、住民参加型の広報誌を目指してきた。

細部に関しては、「横書き」での編集を「縦書き」とし、町広報誌と同様に右閉じに変更させていただいた。また、一般質問については、500字を1,000字に増やし、できるだけ内容を詳しく掲載する等、様々な趣向を取り入れられることで、議会広報誌のリニューアル化を図ってきたところである。

地域活性化特別委員会

委員長 今元 直寛

「地域資源を活用した人口定住の促進」をテーマに、住宅支援、子育て支援、教育環境の充実について調査・研究をしてきた。

まず、先進地の視察として大分県宇佐市を訪問、同市では補助事業として「子育て住宅改修事業」で子供部屋の増改築を県と一体となって行っている。

豊後高田市では学校完全週休2日制になって以来、土・日曜日の余暇を有意義に過ごさせるため、市長を塾頭、教育長を副塾頭とした市営の塾「学びの21世紀塾」を誕生させた。学力アップのための学習塾、英会話、パソコン教室や体力増強を図る塾など多岐に渡っている。

市はこの事業に年間2,100万円の予算計上をしている。これらの指導には、教職員OBや一般市民の方々の有償ボランティアが活躍している。

この取り組みは同市が全国に先駆けて開校している「小中一



戴星学園授業参観

貫学校の戴星学園」とともに教育面や人口定住促進面でも大きな成果をあげている。

先般、文科大臣が視察し、「このシステムを豊後高田方式と称し、今後、土・日曜日の余暇活用のモデルにしたい」と言わせ、高い評価を得ている。

少子化の進む本町もこの方式を大いに参考にし、明日を担う周防大島っ子の学力、体力向上のために町主体の塾の運営を検討していただきたい。